無趣味

太宰治

この、三鷹（みたか）の奥に移り住んだのは、昨年の九月一日である。その前は、甲府の町はずれに家を借りて住んでいたのである。その家のひとつきの家賃は、六円五十銭であった。又その前は、甲州御坂峠（みさかとうげ）の頂上の、茶店の二階を借りて住んでいたのである。更にその前は、荻窪（おぎくぼ）の最下等の下宿屋の一室を借りて住んでいたのである。更にその前は、千葉県、船橋の町はずれに、二十四円の家を借りて住んでいたのである。どこに住んでも同じことである。格別の感慨も無い。いまの三鷹の家に就（つ）いても、訪客はさまざまの感想を述べてくれるのであるが、私は常に甚（はなは）だいい加減の合槌（あいづち）を打っ

ているのである。どうでも、いい事ではないか。私は、衣食住に就いては、全く趣味が無い。大いに衣食住に凝って得意顔の人は、私には、どうしてだか、ひどく滑稽に見えて仕様が無いのである。

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房
1989（平成元）年6月27日第1刷発行
1998（平成10）年6月15日第4刷発行
底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房
1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6月
初出：「新潮」
1940（昭和15）年3月1日
入力：増山一光
校正：土屋隆
2006年1月13日作成

青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。